

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

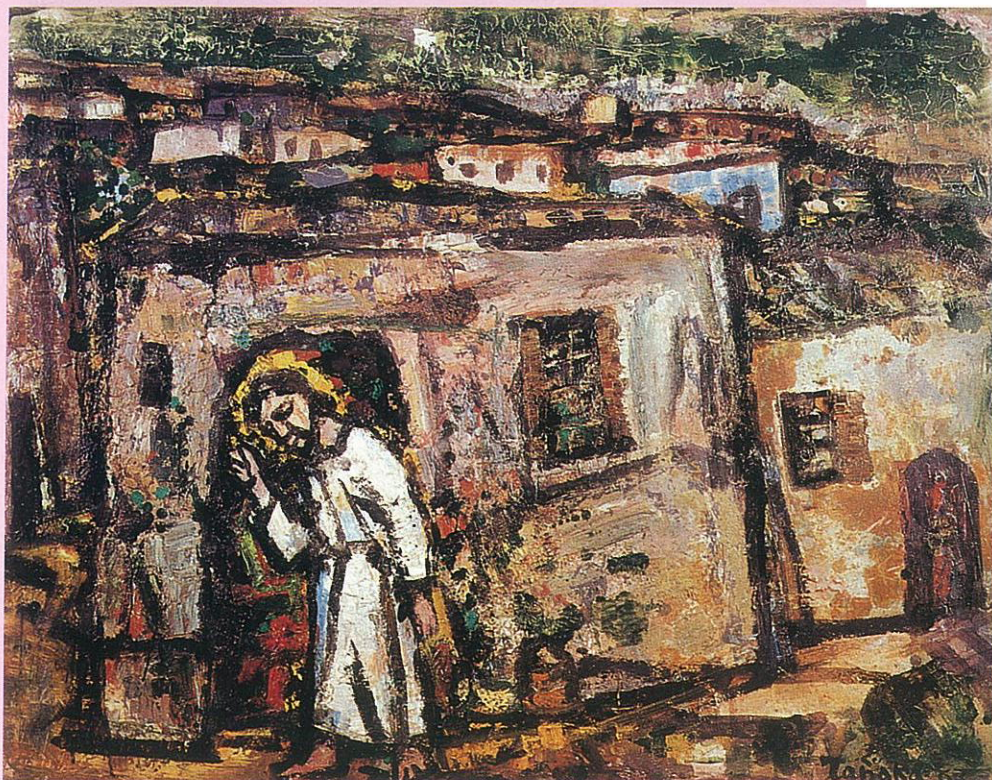
KEIWA

COLLEGE REPORT

第14号

〈APRIL 1998〉

発行/敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP **風土と文学** 北嶋藤郷

特集 SPECIAL REPORT **若者には負けないぞ!**

「ボランティア・センター」オープンにあたって / 学長室だより

1997年度サークル活動報告 “大活躍! チアリーダー部”

これから始まる就職戦線を前にして



去る3月20日(金)に行われた第4回卒業式での名誉学位授与の様子です。今年はノースウェスタン大学ジェイムズE.ブルトマン学長(写真)と、敬和学園高等学校角田三郎寮長に学位記とフードが贈られました。学位記には、「敬和学園大学長の推薦に基づき学校法人敬和学園理事会及び敬和学園大学教授会の決議によって貴下の顕著な学識と学術・文化の発展に対する貢献を表彰するため敬和学園大学名誉文化博士の学位を贈呈します」と記されています。これで本学からこの称号を授与された方は、6名となりました。



もくじ

風土と文学 北嶋藤郷……………1	1997年度サークル活動報告
(特集) 若者には負けないぞ!	“大活躍/チアリーダー部”……………10
～社会人学生から一言～……………4	学長室だより……………11
「ボランティア・センター」オープンにあたって	これから始まる就職戦線を前にして……………12
永野茂洋……………8	学内合同企業説明会を開催……………12
図書館の増築と今後のサービスについて	〈訳書紹介〉英訳された良寛の心……………13
松原洋子……………8	新入生歓迎公開学術講演会……………13

風土と文学

教授 北嶋 藤 郷



暖冬には無縁であったのだろう。「夢中の虫辛さを知らず」という諺のように、雪国生まれの人々は、幼少の時より、雪を見て育っているのだ、屋根の雪掘りなどの労苦をことさら労苦とも思わなかったであろう。

空ひびき土ひびきして吹雪する
寂しき国ぞわが生まれぐに

歌人宮柁二は、名だたる豪雪地の北魚沼の堀之内町に生まれ育ったが、引用の歌のように、彼には吹雪の中の、厳しく、美しい越後の風土を偲んで詠んだ歌が多い。現代歌人の中で、彼ほど郷里を大切に歌っている歌人はいないが、その風土の清澄さが、そのまま歌人の本質にあるように思われる。作者とその風土との関わりを追及していけば、歌いあげられた地方が地方を超えて、やがて独特の普遍性を獲得しはじめる。

文学者が作品を書くとき、風土をどのようにな作品に取り上げるのか？ 文学にみる風土の取り上げ方について考えてみると、①作品中で、親しみのある背景の土地を「懐かしい風土」として描く。さらに②遠

くにあって、なかなか手に入らない「憧れの風土」、そして③苦しみをもたらす「苦しい風土」などがあるだろう。あるいはまたイギリスの作家A・ハックスレーの「素晴らしい新世界」のような、「架空の風土」であってもよい。

①「懐かしい風土」とは、作者の心に近い、親近感のもてる風土で、アメリカの作家、T・ウルフの作品『天使よ、故郷を見よ』や『汝再び故郷に帰れず』がすぐ思い浮かぶ。

川端康成の越後湯沢を舞台とした『雪国』の冒頭の部分、「国境の長いトンネルを抜けると雪国だった。夜の底が白くなった」を引用してみる。E・サイデンステッカーの英訳と原文を比較してみると、「夜の底が白くなった」の部分は、「The earth lay white under the night sky.となり、」く平凡な訳となっている。これを英語に直訳すると、意味をなさなくなるので、普通に訳したものと考えられる。日本語には、外国語では翻訳不能な、優れた表現がある。川端文学は、日本の固有の風土の美しさを、瀟灑な日本語で、ある哀愁をこめて描写しようという意識が働いていたのであろう。

②「憧れの風土」は、イギリスの浪漫派の詩人・キーツの「ギリシャ古甕に寄せるオード」など、ギリシャ趣味に凝り固まった素晴らしい、いくつかの詩や、小千谷出身の西脇順三郎の『あむばるわりあ』の中のギリシャ的叙情詩や、萩原朔太郎の「旅上」、そして永井荷風の『ふらんす物語』を読めば、みんな遠い所やある特定の風土に憧れて、そういう感慨を文学作品に結実した経緯が理解される。憧れの風土は文学

昔から越後は厳しい風土として知られてきた。七十六里を超す長い海岸線には、親不知子不知のような寄りつくすべもない断崖が聳え、白涛岩を噛む日本海上を四十九里隔て、遠流の地としての歴史を今にとどめる、佐渡方島などの離島も点在している。鈴木牧之の『北越雪譜』を繙けば、「凡雪九月末より降りはじめて雪中に春を迎え、正二の月は雪尚深し。三四の月に至りて次第に解、五月にいたりて雪全く消て夏道となる」とある。雪中にあること約八ヶ月、雪を見ない月はわずか四ヶ月、半年の間は雪籠りで明け暮れする。雪の降りしきるなかで稲刈りをすることもあった。江戸時代には、エルニーニョ現象もなく、越後の国は

作品のひとつの重要な契機や素材となりうる。

③「苦々しい風土」をテーマにした作品には、小林多喜二の『蟹工船』や島木健作の『生活の探求』などがある。長塚節の『土』とアメリカの南部作家、E・コールドウェルの『酔どれ草の道』を比較した論考もある。J・スタインベックの『怒りの葡萄』は、アメリカ中西部のオクラホマから、砂嵐に追われて西へ移住していった、貧窮白人一家の物語である。作家が自分の身のまわりの苦しい状況や環境のことを書いた作品には、プロレタリア文学または写実主義や自然主義の系統の作品が多い。

◇越州沙門良寛と風土

Io! Gogo-an

on this year's New Year card—
ah, Tyger! Tyger! burning bright
tail-tipped with a mosquito
blated by Ryokan's big toe!

索々五合庵 索々たり五合庵
實如懸磬然 実如懸磬のごとく然り
戸外竹一叢 戸外竹一叢
壁上偈若干 壁上偈若干
釜中时有塵 釜中時に塵有り
竈裏更無烟 竈裏更に烟無し
唯有隣寺僧 唯隣寺の僧有りて
仍敲月下門 仍に敲く月下の門

最初の英詩は、Sさんからの年賀状の転載である。はじめの二行で、Sさんは、今

年の年賀状の図案に穂苅春雄画伯の「新雪の五合庵」が印刷されているのを知った時の、驚きと喜びを、「見よ！」と呼びかけている。三行目には、W・ブレイクの最大の傑作「虎」(The Tyger)からの「前歌取り」の手法で最初の一行を引用している。ブレイクの詩は、心象の難解な象徴性については、その解釈が多岐にわたるのだが、「虎よ！漆黒の夜の森かげで、赫々と燃えている虎よ！」は平井正穂氏によれば、「愛と恩寵の主キリストに甘えんとする因襲的な信仰に抗し、怒りと正義の主キリストへと志向せんとする作者の心情が示唆され」ているという。Sさんは、スタインベックが『赫々と燃えて』という戯曲を物していることや、「Tyger」という古い形の方が虎の激しさ、時として破壊的な猛威をふるう力を暗示していることは、承知尽であろう。学匠詩人Sさんは、ここが勝負所と見てか、五合庵でのある夏の夜、寅年生まれの大愚良寛の、諸国行脚した、丈夫で大きな足指の生き血をたっぷり吸った蚊を登場させる。ほぼ二百年の時空を超えて、平成戊寅元旦に猛虎の尻尾の先端に良寛の蚊がちゃっかり乗っかっているのだ。最後は、Sさんらしく戯画化してうまくまとめている。

蚊虻の外に片足延べて生きの血を
夜さ夜さ庵の蚊に施しき

この短歌は、「良寛和尚讃称」の中にみえる歌人吉野秀雄の詠である。「ほんとに良寛さんは、日本の献血者第一号だね」とSさんは言ったことがある。禅の修行も積んだことのあるSさんは、仏法は耳で聞く

ものではなく、心で聞くものだと言われる。仏心はすべてのものに存在し、平等にいきわたっていると、獣や鳥や昆虫の命までも尊び、植物にも愛情を示した良寛の生きざまに、おおいに共感したのであろう。英文短歌の実作者として、良寛歌「五合庵に題す」は勿論のこと、おそらくはこの歌も脳裏に浮かべたものと思われる。

次の漢詩は、良寛詩「五合庵」の全文の引用である。良寛は最初に、五合庵の佇まいはわびしいと書き出している。生活は貧窮して、慰めるものもないが、わずかに群生する戸外の竹林が、寂しい心を癒してくれる。間口貳間奥行九尺(六畳一間位)の庵の壁に張った漢詩を眺めては気晴らしとするが、部屋の中は何もない空っぽである。釜は使用していないから、時に塵が積もり、竈からは煙が立ちのぼらない。そのような



雪の五合庵 小泉藍田画

CLOSE UP

侘しい生活の中でも、隣の寺の僧侶が、時々月に照らされた門を叩いて、慰問に来てくれる。

禅の隠遁思想とその実践から、良寛は「独処草庵」、「山上独居」の生活を続けた。時折、托鉢に出ても施物もあまりなく、物質的には恵まれない清貧の生活であったが、心は満たされていたであろう。しかし五合庵は都会の喧騒から遠く離れていて、越後の冬空は鳴り、海からの風雪は、どれほど骨身にこたえたことであろうか？

◇秋艸道人と風土

もののふはながをかげとらふでとりて
きみまついでしこしのふるさと

秋艸道人こと會津八一の歌である。越後を代表する偉人として、武将ではまず長尾景虎（上杉謙信）を、書人としては良寛禪師をあげる。「きみまついでし」の後には、「瘦蛙まけるな一茶是にあり」に付句したように、「次に控えし會津八朔」とくるのである。お国自慢にかこつけて、自分をしっかりと売り込むしたたかさもっている。人には、自分の人生を大きく左右するような邂逅があるものだが、若き日の八一の場合、今から丁度百年前、たまたま新潟に来港した坪内逍遙の講演を聞いて感激し、彼の講筵に列することを願ひ、早稲田大学に入学する。これが第一の出会いである。次は、「春風や大江戸に入る懐手」の一句を擁して、意気揚々と上京を果たした八一は、根岸の里の正岡子規を尋ねている。彼

は子規に半牧本『良寛詩集』を贈っている。子規よりも一日の長をもって良寛に親しんでいる八一は、子規に越後の詩僧良寛を突付けたともいえる。「万葉集―良寛―子規―會津八一」という系譜意識をもって、これは終生、歌壇結社の域外にあって、独往の態度を堅持したのである。

第三番目には、早稲田大学で小泉八雲（Lafcadio Hearn）と出会い、彼からイギリス浪漫派の詩人たち、わけてもジョン・キーツ（John Keats）の詩を学んだことである。卒業論文は「キーツ研究」であったし、八一自身早稲田でキーツを講義して、「日本一のキーツ研究」と胸をはっていたから、大変な自信をもっていたのである。

八一は、自身の坩堝の中で、キーツの詩の世界を万葉調に溶かし込み、キーツの影響をかき消しながら八一調の独自の世界を構築していった。八一の短歌が人を魅了し、かつ拒むのは、彼が博覧強記の人であり、大方の読者が彼の学識を理解できないからであろうと思われる。八一の歌を読むと、越後人たる良寛の情愛が、八一にも内蔵されていることがわかる。彼ほど良寛から深い影響を受け、それを血肉のものとして、優れた自己の歌を創造した歌人はいない。

この「懐かしき響」の良寛調の境地こそ、半ば風土的な要素であるだけ指摘しておきたい。

先日、戦後の暗い世相を代表するチャンピオンの存在であった、坂口安吾の碑を訪ねた。彼が少年の日の夢を埋めた寄居浜は、人影もなく穏やかで、碑の向こうには日本海と佐渡ガ島も遙かに眺望できた。かつて

安吾も散策に疲れて、視線を遠く海に向けて腰をおろし、小休息を楽しんだこともあっただろう。碑面に刻まれた「ふるさととは語ることなし」の文言が、室生犀星の「小景異情」（その二）とオーバラップして気にかかったので、安吾の研究者として知られる若月忠信氏に、安吾と郷土との関係について訊ねてみた。（若月氏は、本学でも日本近代文学を講義され、先年安吾の長男、坂口綱男氏を教室に招いて、学生諸君の話題を呼んだ。）

碑文は、「雪も新潟の雪は変に親切すぎる」、「コタツはガサツで親切すぎてイヤなものだがあたためわけにもいかぬ悲しい新潟」の三枚連作の中から、壇一雄によって選定された、と若月氏は教えてくれた。偉大なる落伍者の烙印を押されて、郷里を後した安吾であってみれば、愛憎半ばする心情もよくわかる。「あちらこちら命がけ」と過激に言い放った安吾であったが、「寺がなくとも、良寛は存在する」の一文を残したところをみても、古里の山河への望郷の思いを凍結しながら生き抜くことが、とりあえずは安吾の生きざまであったのだろう。

（拙稿中のSさんとは、本学教授のサンフォード・ゴールドステイン先生である。）

SPECIAL REPORT

若者には負けないぞ！

～ 社会人学生から一言 ～

激動の政治生活の中で新しい知識に触れ合う感動！育まれたゼミの友情！理解し支えていただいた後援会の皆様や家族に感謝！

楽しかった大学生活

国際文化学科 九四K一〇〇 佐藤 浩雄

北垣学長の気さくな人柄と高い教養に触れて大学入学を決意！

私は敬和学園大学の卒業を迎えます。この四年間、激動の政治生活のために大学を諦めたときが何回もあっただけに感激もひとしおです。御指導いただいた北垣学長を初めとする諸先生や職員の皆様に感謝申し上げます。また市議会議員である私の学生生活を支えていただいた後援会の役員を初め支持者の皆様や家族に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

思い起こせば五年前、北垣学長を団長とし、新発田市長や新発田の経済界や議員による「英米大学並びに学園都市海外研修視察」が行われ、私も市議会議員として私費参加させていただきました。そこの北垣学長の気さくな人柄と高い教養に触れ感激し、こんな先生に学んだらどんなに楽しい

だろうかと思ひ、かねてから大学へ入りたいと考えていた私は、大学へ入る事を最終的に決意をしたのです。

しかし四十九歳の人間が大学入試を受けることは容易なことではありませんでした。入試勉強には友人の英語教師に強引に頼み込み、毎日問題集を解いては友人に見てもらいました。入学案内に社会人入学制度があることを知り、先生に相談したところ「力試しに受けてみる」と言うことになりました。面接の時、英語で「職業や趣味、米国へ行ったことがあるか、入学の目的は何か」とブラウン先生に聞かれたときは、英語が理解できず、やっと答えたものです。入試発表で、名前を掲示板に見つけたときは本当に嬉しく、妻と二人で記念写真を撮っていたら、学長室に案内され紅茶をご馳走になりながら、歓迎と励ましのお言葉をいただいたことも忘れられない思い出です。

しかし私の大学入学は、私の子供の入学と思われ誰も信じてくれませんでした。

激動の政治生活の中、新たな知識に触れ合う感動！苦勞した英・独語、素晴らしい先生に指導されて頑張れました！

大学の勉強が始まりました。新しい知識に触れ合う感動の日々を送り、前期試験も終わったとき、突然私の政治活動の方でも激変が起こりました。思ってもいなかった新発田市長選挙への出馬要請です。何度断っても市長選への出馬を要請され、遂に出馬の要請を受け入れなければなりません。激しい政治戦争にたたき込まれました。悔しかったのは相手陣営から佐藤浩雄は敬和へ裏口入学した等とデマ攻撃をされたことです。私は大学入試にボールペン三十六



勉強

東京ゼミ合宿でディベートについて講義を聴く

本使って勉強したと言い返しました。しかし市長選挙で十一月まで授業に出席できませんでした。市長選挙で落選、再び学生生活に戻る事ができました。遅れを取り戻すのに必死で勉強を再開しましたが、英語とドイツ語はどうにもなりません。松崎先生や桑原先生の研究室に行って教えていただき、参考書を毎日学習し指導していただきました。素晴らしい先生方の指導を得て頑張れました。二年生になった四月には再び市議会議員選挙があり約一ヶ月休まなければなりません。何とか市議選では一番で当選し、市議会議員と学生の二足の草鞋をはき続けることができました。まさに激動の二年間でした。

忙しい学生生活一分一秒惜しんで仕事と勉強！ゼミを通じて友情が固まる！感動を与えたボランティア活動！「必殺仕掛人」の悪役として映画出演！卒論は十二万四千字！

三年生となり、授業が一層面白く、大学が一層楽しくなりました。中でも社会科学系の学科は面白く、議員活動にどう生かすかを考えながら勉強しました。事実、そのヒントを得て議員活動に多く使わせていただきましたが、現代哲学のアカウンタビリティの概念をヒントに新発田市情報公開条例佐藤浩雄私案を提案したのもその一つです。また、ヨーロッパ研究Bの「マーストリヒト条約」をヒントに「新発田市と周辺市町村の行財政効率比較」をやって、近隣市町村との合併を促進させたのはヒットでした。



ペンション 恵美子

拙宅での番外一泊ゼミは年間10回を数えた

大海ゼミに入り為替決定論を勉強しました。夜の英語の勉強にはまいりました。英語は苦手なのに膨大な宿題を出すのです。私の力では一週間かかってでも宿題はできないのです。先生は全く容赦しません。ゼミでは、春の花見、ディベート紅白戦、北信越ゼミ大会、東京合宿と課外活動も多く有意義でした。特に北信越ゼミ大会ではキャプテンとして参加、金沢経済大学を完膚無きまでに打ちのめし、凱旋、大海先生を喜ばせたことが嬉しい思い出です。私の家では妻の手料理で年十回位は勉強会と飲み会を行い、朝まで語り合いました。大海先生の厳しいながらも良き指導も受け、生涯の友人ができたことが最も大きな収穫でした。新発田祭りにも大海ゼミで参加しました。また、悪役大海の大ボスとして「必殺仕掛人」へ映画出演したことも忘れがたい思い出です。大海先生ありがとうございました。

私は二回、四日間ボランティアに参加しました。市議会議員ですから市民のお世話をするのは当然で、感謝されています。しかしそれとは全く別な感激を味わうことができました。無欲で奉仕し感謝されるのがこんなに壮快な気分を与えてくれるものだと思います。ボランティアには批判的な私でしたが、感謝し涙を流すおじいちゃん、おばあちゃんの姿が私の価値観を変えてしまっていました。

卒論には日本版ビッグバンを選び、証券・銀行・保険全てを課題とした上、銀行・証券・保険の破綻や総会屋、大蔵官僚の腐敗等の経済的構造的暴力問題も課題としたために、十二万四千字もの大作となりました。しかし公的資金の導入や腐敗構造等の予測も当たり、私にとって満足すべきものとなりました。

私は市議会議員です。会報を一万枚年二回発行、市議会では質問や討論に加わりマスコミにもよく出ています。特に予算委員長でしたので多忙を極めました。正月の元旦から会報配布に一万戸の家庭を回りますが、その間に忘新年会が六十回以上あり、アルコール漬けの中で毎日二時、三時まで



夫婦愛 ゼミの卒業温泉旅行で

ハイヒールの妻を背負って雪の雲洞庵を離れる
(大海先生に後ろからフォーカスされてしまった！)

試験勉強するのです。従って後期試験準備は十二月初めからしなければなりません。議員と学生の二足の草鞋の生活は一分一秒を大切にして勉強と仕事をする事を心がけていました。テレビのチャンネルのように気持ちを切変え勉強と議員活動を両立させなければなりません。それだけに学生生活は充実していました。卒業までにポールペンの替え芯は百六十一本にもなり、私の良き記念です。

社会人学生こそ一般学生の刺激剤、
真の学生! 必ず後輩を入学させます

北信越ゼミ大会へ参加するゼミ学習では我家で、皆でずいぶん勉強しました。このことを通じて社会的経験がある私と無い若い学生では授業の理解に随分差があること

一九九七年度 科目等履修生紹介

まる四年を終えて
迎える春に寄せて



若木 秀子
『経済学』・『平和学』

敬和学園大学に学び四年が過ぎ、その間七科目を履修致しましたが、どの科目の先

に気付きました。明確な目標を持った社会人学生が学生の中に入ることはお互いに大きな刺激と励みになるようです。

社会人学生こそ刺激剤であり、真の学生かもしれません。今毎日「大学生活は楽しいですよ、敬和に入りませんか」と市民に

呼びかけています。近々必ず社会人学生の後輩を入学させることをお約束し、敬和学園大学の皆様への御礼にさせていただきます。ありがとうございました。

以上

●ゼミを担当

教授 大海 宏

シナジー効果という言葉がある。二つ以上の要因が相互に作用し合って何倍もの効果を出すことである。政治家学生佐藤浩雄君の存在はシナジー効果そのものだった。回りの若い学生たちに、努力とは何か、責任とは何か、思いやりとは何か、規律とは何か、を行動で示してくれた。一方、佐藤君も若い感性から

学ぶことが実に多かったと述懐している。本当に二度目の青春を満喫している風だった。白状すれば私も、大海ゼミ売物物の課外活動の裏方さんをほとんど佐藤君ご夫妻に頼ってきた。事実上二人三脚、否三人四脚だった。浩雄君ありがとう、恵美子さんありがとうございました。

生方もとても熱心に講義をして下さいました。

自分の興味のある科目を選択したり、あるいは講義を聞いてみたいと思う先生の授業を受けてまいりましたので、先生方の一言一言を聞きもらすまいと必死にノートを取っておりました。最新の情報を、研究成果を毎週講義で聞く事ができるのでから、毎回真剣で楽しく、又その内容を現実の生活の中に取り入れ入れやす事ができるのも新鮮な驚きでした。社会人学生の強み? と思います。

各先生方より沢山の教えを受けてまいりましたが、今でも心に深く残っている言葉・テーマが数多くあります。その中の一つに、延原教授の「人間として生まれたからには物事を深く考えなくてはならない。」という言葉がとても印象に残りました。

最後に心よく迎えて下さいました北垣学長はじめ、講義をして下さいました先生方と、職員の皆様にご心よりお礼申し上げます。

やり直し学生の言い訳

藤井 尚治
『第三世界論』

んでくると思っていて、いつも見ていたのだそうです。お爺さんにはガツクリきました。一昨年は「環日本海文化研究」（藤田講師）の名に惹かれて受講しました。昨年はそれに関連する内容の講座が見つからず、環日本海に続くのは第三世界だろうかなどと、いい加減な判断で選択しました。

「環日本海」も「第三世界論」も講師の先生は近日の新聞記事を扱って講義され、私にはそれがとても新鮮で興味深く、その話を先生から聴くことが楽しみで受講に通ったのです。

無いことを思うたものです。また、先生のお勧めの本を何冊か読むうちに、本にはそれぞれ著者の偏りの目があると思ひ、自分の目で世界を見てみたくなりました。

日本のODAや、民間企業の進出が本当は第三世界にどんな影響を与えていたのか、観光ではない旅で見ることができないかとチャンスを探っています。

廊下のパネル・ヒーターで暖をとっておりましたら、一人の学生さんが側に来て、「あなたは学生なんですか」と聞いてきました。「講義を聴講に来ているんです」と答えますと「何の為に？」と不思議そうな顔をしていました。「生き甲斐の為にですよ」と答えたのですが、かつての怠け者時代をやり直してみたかった気持ちもあるのです。変なお爺さんがスクール・バスに乗り込

「第三世界論」の浅野先生は新聞記事の背景を話し出すと、段々熱が入ってその日のテキストのことなど忘れてお話しになるので、私もその方が面白くて、夢中で聴いておりました。後になってテキストを全頁読んでみますと、その内容をいつのまにか話しておられたのだということが分かり、午前中寝坊していたという学生さんは勿体

以上科目等履習生の「おかげ八目」でした。ご容赦下さい。

聴講体験を通して

野間 光頭
『キリスト教学』

この度、敬和学園大学での聴講を許された私は、講義や先生方との交わりを通して

様々な知識や発見、そして鳥肌が立つような感動に出会う事ができました。その中で最も大きかったのが「積極的に学ぶ姿勢」と「学びたいという思い」を大切にすることです。以前私は、関西で六年間も学生生活を過ごしました。他の学生よりも長く過ごしたにも関わらず、私には「積極的に学ぶ」とする姿勢が欠如していたため、残念ながらそこでは発見や感動を得る事ができませんでした。また私は「社会に出れば学ぶ暇など無い、学生の間勉強を終わらせなければ……」というような考えを持っていました。その考えによって私は、常に何

か、プレッシャーのようなものを感じていた上に、「学びたい」という純粋な欲求を失っていたように思います。私は今回の聴講の経験を通して、本来学ぶ事の持つ面白さや素晴らしさ、そして「学びたい」という純粋な気持ちがあればいつでも学べる、「学びたい」と思ったその時がその人にとってとても大切な時なのだと思います。これからも敬和学園大学で得る事ができた「学びへの姿勢と思い」を大切にしつつ、学び続けていきたいと思っています。本当にありがとうございます。

「ボランティア・センター」 オープンにあたって

ボランティア委員長

永野 茂 洋

一九九七年度の「福祉体験学習週間」は、昨年の九月、近隣の社会福祉施設・公立学校・特殊教育諸学校の御協力を得て無事終了した。御協力を頂いた施設・学校は七五ヶ所にも上った。一九九一年(開学年)に第一回目のプログラムを実施したときには十三ヶ所であったから、この七年間に本学の学生を引き受けて下さった施設・学校の数は、約六倍に増加したことになる。

数だけでなく、この間に施設・学校の種類も多様化してきている。特にここ三年間は、従来からの老人福祉施設・障害者施設・児童福祉施設に加えて、公立学校の特殊学級や養護学校での体験実習が増えてきている。また、施設・学校の所在地も、当初の新発田市周辺地域から、現在では新潟市はもちろん、三条市や燕市、加茂市、巻町、吉田町など、かなり広い範囲にまで拡大した。これらは、学生ができるだけ自分の生活地に近い地元の施設・学校に改めて目を向け、その中で自分のしたいこと・すべきこと・できることを学びながら、自分らでこの社会の一翼を責任をもって担い、造ってゆく人間に育ってほしいとの大学側の願いと、それぞれの地域の施設・学校がそれに快く、また暖かく応えて下さった結果である。

しかしもう一つ大きな理由がある。大学側の変化である。

このプログラムを担当しているスタッフの第一の仕事は、各施設・学校の特色とそれぞれの事情をお伺いしながら、学生との間に立って両者を仲立ちすることにある。

この仕事には、一九九三年以降、新発田市の社会福祉協議会事務局長から本学の初代のボランティア主事にお迎えした小川文勝先生を中心に、教職員スタッフが取り組んできたが、年を追う毎にその仕事量は累乗的に増大している。しかし、これは実は当然の事であって、当初は、三十人ずつ一括りにして、全員が同じ施設にとりやうり方だったのだが(しかも名簿順だからある施設に行った学生全員が渡辺君だったりした!)、現在では、できるだけ一人一人の学生の性格や考え、希望を尊重しながら、個別的に、受け入れ先との仲立ちをするやり方へと変わってきている。個別的に対応しようとすればするほど、事務量は累乗的に増大していかざるを得ない。

受け入れ先の種類や数、分布範囲がここ数年急に拡大してきた背景には、「たとえ事務量が増え、煩雑になっても、それをよしとしなければ、ボランティアをする人間をここで育てることはできないだろう」という大学側の意識の変化、対応の変化が大きく作用している。

昨年「福祉体験学習週間」の事前学習の講師として来て下さった県立新潟養護学校教頭の外山武夫先生によれば、「障害というのは個人差の一つであり、また障害のあるなしにかかわらず、子供は一人一人が違った個性的な存在なのであって、一人一人が違っていることを当然のこととして受け止め、認め合うことが養護学校では何よりも

図書館の増築と

今後のサーブिसについて

図書館主任 松原 洋子

昨年十月、教室・体育館とともに図書館の増築工事が無事終わりました。この増築部分はニューエル館と呼びます。開学からわずか七年足らずで、大きな事業を三回経験することになりました。(一回目は開学時の図書搬入等。二回目は九五五年の機械化。そして今回の増築工事です。)春休みに入ってから書架・雑誌架・閲覧机等の備品を設置し、現在は図書の移動を行っています。

開学以来、図書・製本雑誌は年々増え、今年度末で約三万二千余冊の所蔵数となりました。雑誌は約百六十種になりました。これは開学時に比べると、図書が約二倍、雑誌が約三倍に増えたことになりました。

毎年年度末の蔵書点検の時に図書の移動をし、狭くなってきた書架を何とかやりくりしてました。

今回の増築により、図書館の総面積は約二倍になります。図書収容能力で言いますと、開架で約一万八千冊分、閉架で約一万五千冊分が増えることになりました。座席数は二十六席増、ビデオ席も八席増で、合計三十四席増えます。ビデオ席は今まで四席しかなかったもので、学生の皆さんには大いに利用していただきたいと思えます。

従来の閲覧室(新発田館)とニューエル館の境には「雑誌コーナー」としてソファを設置しましたので、くつろいで読書を楽しめることと思えます。

まず重要なのだ」という。その学校に、あるいは施設に、ボランティア学習・体験学習をしに行く大学生が、もしその個性を承認されていないとすれば、あるいは個性を尊重する扱いをされていないとすれば、それこそ問題であろう。

逆に言えば、学生をマスとして、一括りにして教育してきた従来型の多くの教育機関からは、将来、語の本当の意味でのボランティア活動をする人間を育てていくことが難しいに違いない。その意味で、大学が学生にボランティア活動を勧めるといふことは、大学が従来型の教育機関から、個性を承認する教育機関に変わりますと宣言することもできる。

今年の四月一日から、「小学校及び中学校の教諭の普通免許授与に係る教育職員免許法の特例に関する法律」という長い名前の法律が施行される。これによって、小・中学校の先生になろうという学生は、施設や特殊教育諸学校で七日間以上の体験学習が義務付けられる。教職課程を有する全国の国公立大学は、現在この対応に追われている最中である。各都道府県の社会協議会は、全国一律の基準を設けて、教職課程の学生を各施設に斡旋、証明書の発行をするらしいとの噂も耳にする。どのようなかたちで実施されるのであれ、将来小・中学校の先生になる学生たちの個性がまず尊重され、認められるようにと願わずにはいられない。

敬和でも、昨年の暮れ以来、これまで積み上げてきた「体験学習週間」のプログラムと、この新しい教職のプログラムとをどう組み合わせるのがよいか、どうすればこ

の「体験学習」の義務付けを中身のあるものにするができるのか、現在教職課程担当の柴沼晶子教授を中心にボランティア委員が加わって議論を重ねている。

同時に敬和では、これまで主に「体験学習週間」の事務と学生の面談に使用していた「ボランティア相談室」を、この四月より『ニューエル館』の二階に移すことになった。そしてこの機会に、名称もボランティア・センターとなることが決まった。

この地域でのボランティア活動や本学の「福祉体験学習」プログラムの内容の多様化に対する対応、また右に述べたような学生の個性を尊重した一対一での個別的な対応、あるいは各種ボランティア団体からのへ様々な情報の収集と発信、そして将来的には、国際ボランティア活動の中心拠点として、この「ボランティア・センター」は大いに利用されていくはずである。必要な機材や備品はもちろんまだ不足しているが、「人」さえいれば何かができるというのが当センターの強みでもある。この「ボランティア・センター」で、本学の学生・教職員が何をしていくか、あるいはここを何に、どう利用・発展させていくか、考えるだけでも楽しく、夢は膨らむ。すばらしいアイデアを持ち込んで頂きたいと思う。学生・教職員以外の方でも、もちろん歓迎である。四月からの開室に備えて、とりあえず「点字板」を教台購入したので、遊びがてらに使ってみようという人、点字で一冊単行本を打ってみようという人も大歓迎したい。この一年は毎日オープンという体勢にはならないが、当センターがフルに活動できるように工夫を重ねていきたいと思っている。

また館内には新たにコピー室と洗面所もできましたので、今までのように勉強中に館外に出なくてもよくなりました。

閉架書架には主に製本雑誌や、他大学から送られてきた紀要が配架されています。普段は鍵がかかっていますが、いつでも利用できますので、希望のある場合は遠慮なく職員に申し出て下さい。

増築に伴い、サービス面もより向上させていきたいと思っています。利用が多い新書・文庫それに話題の洋画を中心にビデオも充実させていきたいと思えます。レファレンス係も新たに常駐することになりましたので、気軽に質問してみてください。

なお、本学図書館は一般の方々にも開放されており、是非御利用下さい。



増築された図書館

大活躍！チアリーダー部

学内外で活躍している敬和学園大学チアリーダー部部长山田愛歌さんにお話を聞きました。

——一九九七年度はどのような活動をしてこられましたか。

山田 四月に「新発田市春まつり」参加に始まり、六月にアメリカカンフットボールの試合で長野Mウエーブを応援しました。八月には新潟市「サンバカーニバル」や二十四時間テレビ「愛は地球を救う」に出演しました。九月に入って「第九回全国生涯学習フェスティバル開催三十日前パレード」と「分水町町民交流フェスティバル」に参加し、十月には「けんせつフェア in 北陸」や二〇〇二年サッカー・ワールドカップ開催記念行事である「ワールドカップ新潟フェア'97」で演技しました。十一月には昨年度に引き続き「ホットウエーブ'97ニュー」に「たの祭典」に参加して東京ドームで踊りました。

——精力的に活動されましたね。

山田 はい、九六年に東京ドームで開催された恒例のホットウエーブにいがたの祭典に初参加したことで新潟県内の企業の皆様に私達のアトラクションを見ていただく機会ができたことから、お陰様で多くの公演依頼をいただきました。

——どの活動が最も印象的でしたか。

山田 二十四時間テレビですが、本当はテレビに出る予定はなかったのですが、二十秒間の演技をちょうど二十秒間生放送してもらい、後で皆から「見たよ」とか「よかったよ」と声をかけてもらって、とても嬉し



かったです。

——ホットウエーブにいがたへの参加は山田さんご自身二年目でしたが、二年続けて参加した感想はいかがでしたか。

山田 去年よりもいいものをやりたいという思いがあるので、踊りのレベル、リフティング（パートナーを持ち上げる）のレベルを高くしました。新しいものに挑戦した分とても緊張して、皆をまとめるのが大変でした。

——リフティングは力が要りますよね。筋

カトレーニングはどのようにしていますか。

山田 みんな力持ちなんですよ。特別なトレーニングはしないで、踊りて体をほぐしてからリフティングに移行します。

——力是要るし、スタイルにも配慮が要るし大変ですね。ダイエットなどしてますか。

山田 特にしてませんが、踊っているときやせると皆言っています。

——踊り自体かなりハードなんですね。振付はどのように決めていますか。

山田 他のチアリーダー部の活動もたまに見に行きますが、全部自分たちで集まって案を出し合って決めます。今までは踊りが主流でしたが、本当のチアリーダーというのはリフティングなどをして「ワッ」と言わせるものなので、そういうのを多く取り入れて、見えて飽きないアトラクションにしたいと思っています。

——これからの抱負をお聞かせください。

山田 去年は予定が合わずに依頼をお断わりすることが多かったのですが、今年は前もって計画してできるだけ多くの依頼をお受けしたいと思っています。チアリーダーは皆を楽しませるものなので、笑顔でやらなければなりません。私達はまだ踊りに専念してしまふところがあるので、普段から笑顔

を絶やさずにいけたらいい、チアリーダーと言えば「笑顔」となったらいいと思います。

——ワールドカップ開催記念行事にも参加したわけですが、二〇〇二年のワールドカップでも応援できたらいいですね。

山田 そうですね。後輩にどんどん続けていってもらいたいです。

（聞き手 チアリーダー部顧問 金山愛子）

学長室だより

国道七号線、いわゆる新新バイパスを使って通学している人、通学した人も多いと思いますが、私も時々バイパスを通って新潟から帰るとき、新発田に近付くにつれて、

パーム体育館が加わった敬和学園大学が、非常な重量感をもって迫ってくることに感動を覚えます。新年度になるとグラウンドの隅に立っている「敬和学園大学」の看板はライトアップされる予定で、夜間にも敬和はその存在を主張することになるはずですよ。

ニューエル館一階が図書館に割当てられ、英語英米文学、語学関係の書物が新しい書架に並び始めました。雑誌もその種類が格段に増え、高度に専門的なものも目につきます。気楽にブラウジングできるように、簡単なソファも準備されました。同館の二階、三階には東側にブラインドが取り付けられ、外から見ても教室らしくなりませんが、私は自宅から大学まで歩いて通っていますが、学長室への最短距離はこのニューエル館の入口から入ることです。その入口のすぐ側には新しい就職相談室ができ、これまでの三倍以上のスペースで、就職のためのサービスが提供されています。一九九八年組の三月二十一日現在の就職内定状況は94・0パーセントと報告されています。就職といえば、今年も教員採用試験に合格者が出ました。小沼善敬君（98E）は北

海道の公立中学、根本栄一君（98E）は新潟県の公立高校、鈴木崇生君（95E）は新潟県の公立中学に、伊藤宏之君（96E）は大坂女学院高校に、それぞれ英語の先生として採用されました。ちょっと変わったところでは、金子なおみさん（98E）は福岡女学院の舎監に就任します。

敬和学園大学はリベラル・アーツ・カレッジであることを目指していますので、大学院への進学もまた大いに奨めています。私のところに報告のあった人を紹介しますと、姜先姫さん（98K）が新潟大学大学院法学研究科へ。斎藤豪芳君（98K）が英知大学大学院人文科学研究科宗教文化専攻へ。金子美由紀さん（97K）は清泉女子大学大学院へ。斎藤君と金子さんはともにカトリックの大学院で宗教哲学を専攻することになります。指導に当たってこられた延原教授のお話によると、このような大学院で宗教哲学を専攻する人は大いに歓迎されるそうです。敬和のような大学でみっちりその基礎を鍛えられた学生は大いに歓迎するというメッセージが、両方の大学院の責任者から寄せられているとのことですよ。

三月から四月は、人を送り、人を迎える季節です。契約講師として本学で三年間英語を担当されたネイケンス先生はこのたび、契約期間を終えて、新潟大学、新潟経営大学で教えられることになりました。代わってお迎えする契約講師はコシヨレック（Sabine Koshorek）先生とブレハン（Kelly Brehan）先生です。また専任の新人としてはアジア史の松本ますみ助教と、時事

英語や英語学演習の中村義実専任講師です。この両先生については次号でご紹介できると思います。

三月二十日（金）には本学は第四回の卒業式を挙行します。卒業する人の数は二百十三人プラスアルファ。なぜアルファかといえ、お分りのように、二月末の卒業判定教授会において、単位数不足ながら、再試験を受ける資格を認定された人々が、首尾よく合格すれば、卒業となるからです。私は毎日祈りながら、その結果を待っているとありますが、卒業不可となった人が複数いることが早くも伝わってきました。私は若い頃、勉強しない学生は情け容赦もなく、どンドン落とす、こわい教師でした。（昔グルノーブルの冬季オリンピックに出場する女子選手に、出場する直前に試験をして、落第点をつけたことがあります。彼女の顔を三十数年たった今も、忘れることができません。）今学長をしていると、昔の私のような先生が敬和にいたらどうなるだろうかと、冷や汗がでます。

今度の卒業式は聖籠町の文化会館が会場です。今後は、敬和学園大学では入学式は新発田市の市民文化会館、卒業式は聖籠町の会館をお借りすることになっています。せっかくキャンパスに立派な体育館ができたのだから、体育館で、という声のあることは知っています。しかし私の方針は、本学を誘致して下さったのは、新発田市と聖籠町であったという歴史的事実を繰り返さない出すためにも、この方針を守りたいと思います。（北垣宗治）

これから始まる就職戦線を前にして

一九九七年度の本学での就職内定率は昨年度を上回るペースで推移しました。早い時期から良い結果を出した学生にはある共通点があります。その第一は「自分をしっかりとアピールできること」、第二は「企業研究がしっかりとできていること」、そして第三は「大学での学生生活をきちんとしている」ということです。これらの学生の大半は、二年次、遅くとも三年次中頃から就職について真剣に考えはじめ、自分の将来についての目標を見出し、それに向かって行動を起こしています。

一方、企業側も長引く不況のなか生き残りをかけて、より質の高い学生の獲得に必死です。ある企業が欲しいと考える学生は、どこの企業でも欲しい学生です。そのため優秀な学生はいくつもの企業から内定をもちらうということになり、これは例年変わらない事実です。学生諸君はこのことをよく理解し、自分を企業に売り込む戦略を立てる必要があります。自分がいかに有能であり、企業にとつて必要な人材であるかをアピールするのです。

その為、一、二年次生諸君にお願いしたいことは、先ず卒業できる単位の履修について今から計画的に考えてほしいということです。四年次生になった時に単位不足のために、就職活動に必要な『卒業見込証明書』の発行が受けられないということのないように履修計画をしっかりと立てて下さい。そして卒業と同時に社会へ羽ばたくことになるのだ、ということも一、二年次生の時から頭に入れておいて下さい。将来必ず訪れるこの「卒業」と「就職」をしっかりと

り心に止め、その時の為に今からの学生生活を有意義なものとし、就職活動での「自己PR」をするための材料を探して下さい。企業の採用試験では必ず「面接試験」があります。この面接で必ず聞かれるのが「あなたの自己PRをして下さい」ということです。ですから、三年次生になる前に自分を企業に売り込むための材料を探し出すためのきっかけ作りをしておいて下さい。

三年次生諸君にお願いしたいことは、これから始まる就職活動に備え十分な準備をしていたいただきたいことです。準備にもいろいろありますが、その第一は徹底した自己分析を行うことです。自分を客観的に見つめることから自分自身の就職活動が始まります。学内で行われる「就職ガイダンス」や各種イベントには必ず出席して下さい。就職活動はこれからの人生を探す活動であり、同時にこれまでの自分を見つめ直す時期でもあります。自分には何ができるか、どんな仕事をしたのか、どんな人生を送りたいのかを自分の中でしっかりと下ろえ、同時にその理由もじっくりと考えて下さい。そこにはマニユアルにはない「君だけの志望動機」が浮かび上がってくるはずですよ。

昨年から就職協定が廃止されましたが、いつの時代でも企業の求める人材は変わりありません。「自身分析」と「企業研究」をしっかりとした学生が就職活動の勝者となるのです。一年次生、二年次生の諸君、どうか、悔いのない大学生活を送るよう、真剣に考えようではありませんか。

学内合同企業説明会を開催

恒例の学内合同企業説明会を去る二月十七日（金）に開催しました。この説明会は学外で行われるものに先立って本学内で実施するもので、三月から本格的に始まる三年次生の就職戦線への意識づけが目的です。今回は学生のアンケートに基づいて大学から出席をお願いした企業二十八社にご参加いただき、昨年の二倍以上の企業数による大掛かりの説明会となりました。

先ず、北垣学長から企業の方々に、本年度の採用のお礼を述べるとともに、来年度も本学学生の就職活動に対してより一層のご理解ご協力を頂きたいとのお願いがありました。

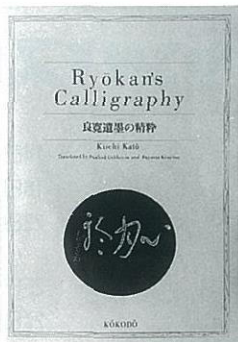
続いて、企業の方々はそれぞれの場合に分かれて説明会に入っていました。企業の方々の熱心な説明は、学生の就職意欲を駆り立てるものでした。学生も百三十名程が参加し、熱心に企業の説明に耳を傾けていました。

終了後、企業の方々から、「今年の敬和の学生は、本当に真剣な目をしている」、「熱心に聞いてくれたので、大変気持ち良く説明ができました」などの、うれしい評価を頂戴いたしました。また、学生達もこれから始まる本格的な就職戦線を前に、「三月からの本番では、もっとしっかりと頑張らなければ」と、さらに気持ちを引き締めた一日でした。

訳書紹介

英訳された
良寛の心

江戸初期の禅僧良寛は歌人、書家としても世に知られている。諸国行脚して一七九九（寛政十一）年、故郷の越後に帰り、国上山の五合庵に住み、風流無欲の求道者



の生涯を送った。かゆを煮るのも手足を洗うのも同じ鉄鉢ですませたという。独自の風格ある書体や万葉調の詩文が高い評価を受けている。彼は一生を通して日々のしがらみに束縛されることなく、人を愛し、完全な自由人であった。無欲な身の処し方に現代人の病んだ心が癒されるところに、いま、良寛の姿が現代によみがえってくるのだ。

本書は加藤僖一著『良寛遺墨の精粹』を二人の研究者が共同で英

Ryōkan's Calligraphy 加藤 僖一 著 『良寛遺墨の精粹』

北 嶋 藤 郷 共 訳
S・ゴールドSTEIN

訳出版したものである。

本書の冒頭「良寛の生涯と書」では、良寛の生涯をたどり、良寛の書芸の特徴である草書、細楷、かな、消息（書簡）を解説。次に「良寛の書と図版の解説」では、良寛の漢詩、和歌、戒語、消息など代表的傑作五十点の作品について解説。これら加藤氏の解説を和文、英文を対訳形式で掲載、日英二カ国語で良寛の書を観賞し楽しむことができる。

良寛の書の第一ページを飾るのは、子どもに頼まれて書いた風文字「天上大風」だ。その解説は「無技巧の技巧、無欲の大欲といった境地が、そのまま文字の形に表れている」と。

この英訳には、訳者二人の苦勞がにじみ見事な出来栄えとなっている。良寛を世界に知らせる期待がもてる書だ。

（考古堂、一九九七）一三四頁
「日本教育新聞」（一九九八年二月七日）の書評欄より転載

新入生歓迎
公開学術講演会

日 時 一九九八年四月四日
午後二時から午後三時半

場 所 新発田市生涯学習センター

講 師 一橋大学長 阿部 謹也 先生
演 題 「いかにして教養を身につけるか」

【講師略歴】

- 一九五八年 一橋大学経済学部卒
- 一九七九年 一橋大学社会学部教授
- 一九八七年 同大学社会学部部長
- 一九九二年 同大学長 現在に至る
- 「中世を旅する人びと」（平凡社）により
- 一九八〇年度「サントリー学芸賞」受賞
- 「中世の窓から」（朝日新聞社）により
- 一九八一年度大佛次郎賞受賞

【代表著書】

- 「ハーメルンの笛吹き男」（平凡社）
- 「中世賤民の宇宙」（筑摩書房）

【寄付者ご芳名】

前号以降にご寄付頂いた方々のお名前を記し、感謝の意を表したと存じます。敬称を略させて頂きます。（北垣宗治）

- 一 般 金原登志恵
- 一九九五組 小田部 歩 皆川靖夫
- 一九九六組 鈴木喜恵
- 一九九七組 富永明生
- 小瀧 敏 栗栖仲次
- 菅原みつ絵 鈴木美智子

キャンパス日誌

1998年

1月

- 9日 講義再開
- 14日 教授会
第7回 就職ガイダンス(3年次生)
第8回 就職ガイダンス(4年次生)
- 17日 大学入試センター試験(～18日まで)
- 21日 学園常務委員会
- 23日 学年末試験(～2月9日まで)
- 24日 外国人留学生入学試験
- 27日 理事会

2月

- 1日 一般入学試験(前期日程)
8会場(本学、新潟、長岡、仙台、高崎、東京、富山、名古屋)にて実施
- 6日 教授会
ファカルティ・リトリート(～7日まで)
- 10日 一般入学試験(前期日程)
センター試験利用入学試験 } 合格発表
外国人留学生入学試験 }
春期休暇(～3月31日まで)



▲2/10 合格発表

- 11日 武藤富元理事長告別式(明治学院にて)
- 12日 就職対策講座 講師:日本文化科学社(～13日まで)
図書館・ニューエル館の備品関係搬入開始(～19日まで)
- 13日 学園常務委員会

- 14日 公務員模擬試験
- 16日 個別面談(3年次生対象)(～25日まで)
- 22日 春期短期留学「アングロ・コンチネタル」
3名参加(～3月30日まで)
- 25日 敬和学園高等学校卒業式
- 27日 学内合同企業説明会(3年次生対象)
臨時教授会(卒業判定その他)



▲2/27 合同企業説明会

3月

- 6日 学園常務委員会
- 7日 敬和学園高等学校チャペル献堂式
- 13日 一般入学試験(後期日程)
2会場(本学、東京)にて実施
- 14日 教授会
- 19日 一般入学試験(後期日程) 合格発表
公務員模擬試験
- 20日 第4回卒業式(227名卒業)



▲3/20 第4回卒業式 答辞

- 27日 後援会役員会
- 30日 理事会・評議員会